

「港北水と緑の学校」がフィリピン・イロイロ市へ!

港北区では平成24年度から、アジア太平洋都市間協力ネットワーク(CITYNET)や横浜市政策局国際政策課と連携しながら、「港北水と緑の学校」(脚注有)で培ってきた環境学習のノウハウを生かして、環境学習に関する国際協力を進めています。今年度は温暖化対策統括本部の環境未来都市推進プロジェクトとして、国内事業の「港北水と緑の学校(事業名:流域と環境の学校)」とともに、海外事業の「環境学習の技術協力による国際貢献」を実施しており、昨年11月、フィリピン・イロイロ市でCITYNETと国際政策課が進める「JICA草の根技術協力事業(地域提案型)フィリピン・イロイロ市における防災推進事業」に合わせて、港北区職員がイロイロ市へ渡航し、河川についての環境学習のワークショップを港北水と緑の学校の受託者であるNPO法人鶴見川流域ネットワーク(NPO TRネット)と実施しました。



イロイロ市の街並みと蛇行するイロイロ川

港北区と同様にイロイロ市も市の中心に川があり、洪水や水質汚染に悩まされてきました。イロイロ市の住民と川とが防災面や環境面で共生する地域として育まれるよう、住民の川に対する関心を高めるワークショップを企画・実施しました。ワークショップは川を明示した地域地図を利用して、川辺の自然や過去の水害被害に関わる情報を収集、整理し、意見交換を進めるという内容で実施し、会場となったセントラル・フィリピン大学(CPU)の大学関係者や学生、地域住民の約70名に参加していただきました。

発言や意見交換などに参加者の方々が積極的に参加していただき、ワークショップは終始盛況のうちに終了しました。特にTRネットの阿部さんの「日本とフィリピンの共通する生きものの解説」では身近に生息する鳥や昆虫類が日本と共通しているということで参加者の皆さんにもとても興味を持ってもらうことができ、川辺の自然の魅力を伝えることができました。

参加した大学講師からは「学生と一緒に地域を歩くのは初めてでした。とても興味のあるアクティビティで、楽しかった」といった意見が出る一方で、学生からは「高校生のときに水害を体験しましたが、今回は当時、気づかなかった情報を知ることができました」など頻発する洪水などの災害に関する意見が多く聞かれました。

※港北水と緑の学校とは:子どもたちが鶴見川を中心とした地域の豊かな自然環境について学び、地域に愛着を深めるための小学生を対象とした体験型の環境学習



学生らと川辺の自然や過去の水害被害に関わる情報を収集



地図を使っての意見交換



感想を述べる参加者の学生

展示会開催情報

今回の活動写真やフィリピンの生きものをご紹介します展示会を開催します。関連イベントも同時開催!

展示会: 港北公会堂 =2月24日(月)~3月3日(月)まで
トレッサ横浜=3月4日(火)~10日(月)まで

イベント: 3月8日(土) 10:00~17:00 トレッサ横浜北棟2階リヨン広場
鶴見川の自然を始めとする身近な自然を体感できるイベント。鶴見川の生きものの水族館、人形劇を始め、生きものや水など自然の大切さを親子で楽しく知ることができます。港北区キャラクターのミスキーも登場!



港北エコアクション通信

こうほく えこあくしょん つうしん

Let's enjoy KOHOKU eco life! 発行: 港北エコアクション | 港北区区政推進課企画調整係 | Tel.045-540-2229 Fax. 045-540-2209
推進本部事務局 | 港北区地域振興課資源化推進担当 | Tel.045-540-2244 Fax. 045-540-2245



港北 ECO ACTION

港北3R夢(スリム)サポーターの活動紹介

「港北区のごみを減らすため活動しています！」

「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」をご存知ですか?

「港北3R夢サポーター(桃井富子会長)」は、自治会・町内会から推薦され、市長から委嘱された港北区環境事業推進委員(309名)のうち、各地区の女性委員が中心となり、地域において具体的なおごみ減らしの実践を行っています。現在は51名のメンバーが、自前でデザインしたピンク色のエプロンを着用して、地域イベントなどで3R行動(リデュース、リユース、リサイクル)のPRと具体的な取り組みの紹介などを行っています。

具体的には、地区センターや区民まつりなどで、「「ヨコハマ3R夢」をご存知ですか?」「分別で分かりづらい品目は何ですか?」などのアンケートや、ご家庭で不要となった衣類等のリユース、廃食油石鹸づくり、生ごみの水切りの実演などの啓発活動を行っています。区民の皆さんに、「ヨコハマ3R夢プラン」が掲げるごみの分別・リサイクルはもちろんのこと、ごみそのものを減らすリデュース(発生抑制)の大切さを知っていただき、地球環境を守ることに繋がっていきたくと考えています。

ご家庭で「生ごみ」を減らす方法をご存知ですか?

各家庭から出される燃やすごみの内、「生ごみ」が約35パーセントだそうです。どうしたら「生ごみ」を減らすことができるでしょうか?

「生ごみの約80パーセントは水分」に着目して、「野菜や果物の皮は、乾かしてから捨てる。」「水分を含んだごみは、たった水分を『ぎゅっ』と絞ってから捨てる。」という、ちょっとした工夫で生ごみの削減に取り組んでいます。(赤井前会長:新吉田地区)

また、残さず食べることや、手つかずに捨ててしまう食品を減らすなどの「食品ロス」を出さないことも生ごみ減らしの方法です。

生ごみを減らすために、一人ひとりが出来ることに取り組んでみましょう。

港北区のごみ削減目標に向けて

区民一人あたりが1日に出すごみと資源の量は625グラム(24年度)だそうです。今年度の目標は618グラムで、一人当たり7グラムを減らすことが出来れば実現します。

将来、港北区が「ごみのごとで困らない住みよいまち」となるよう、私たち3R夢サポーターも力を合わせて、今後も「ヨコハマ3R夢」を応援していきます。地域やイベントで見かけたら、是非、耳を傾けて下さい。

IPCC第38回総会横浜開催関連特集

地球温暖化への「適応」とは

今年3月、横浜市で気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第38回総会が開催され、温暖化に対応する「適応策」が議論されます。

これまで日本では温暖化対策として、温暖化の進行を抑えるため、原因となる温室効果ガスの排出を削減する節電などの省エネの取組「緩和策」が重視されてきました。しかし、温暖化の進行は避けたい状況となっているため、温室効果ガスの削減だけでなく、温暖化によって引き起こされる豪雨や海面上昇などへの対応を強化していく取組である「適応策」が注目されているのです。

そこで今回は、IPCC総会の紹介と、これからの温暖化対策の重要テーマであり、横浜における総会の議題となる地球温暖化「適応策」について、NPO法人鶴見川流域ネットワーク代表理事の岸由二さん(慶應義塾大学名誉教授)にお話しを伺いました。

IPCC総会とは

IPCCは国連環境計画(UNEP)・世界気象機関(WMO)により、1988年に設立された政府間機関で、気候変動に関する科学的な最新の情報をまとめ、広く一般に利用してもらうことを目的としています。「人為的に起こる地球温暖化の認知を高めた」ことが評価され、2007年、ノーベル平和賞を受賞しています。

IPCCが定期的に発表する「評価報告書」(Assessment Report)は、気候変動に関する世界中の科学的知見を数千人の専門家たちが協力して集約した報告書であり、政策決定者を始め広く一般に利用されています。今年の10月をめどに「第5次評価報告書(AR5)」がとりまとめられます。

評価報告書は、3つの作業部会(Working Group:WG)に分かれて作成されます。

今回横浜で開催される総会では、温暖化の影響・適応・脆弱性(ぜいじゃくせい)に関する最新の科学的知見をとりまとめる第2作業部会報告書の承認が行われる予定です。

IPCC総会スケジュール

IPCC第38回総会開催スケジュール

会場：パシフィコ横浜会議センター他(非公開)

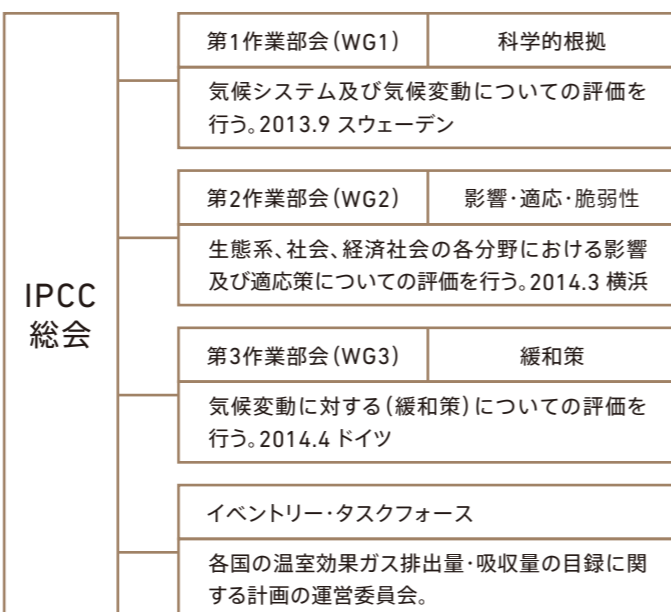
第5次評価報告書第2作業部会会合及び第38回総会：平成26年3月25日(火)～29日(土)

記者会見予定日：平成26年3月30日(日)



IPCC第1作業部会の様子/スウェーデン・ストックホルム市

IPCC組織図



[IPCC総会横浜開催に関するお問い合わせ]

横浜市温暖化対策統括本部 調整課

TEL: 045-671-2622 FAX: 045-663-5110

http://www.city.yokohama.lg.jp/ondan/

岸由二さんインタビュー

地球温暖化「適応策」とは

地球温暖化への対策は、大きく分けて「緩和策」と「適応策」の2つがあります。温暖化の進行を遅くするのが緩和策。単純なのは二酸化炭素などの温暖化ガスの放出を減らす、あるいは吸収する対策です。

適応策は具体例で考えるのが良いと思います。温暖化の進行にともなって規模が大きくなると予想される豪雨、砂災害、熱中症などへの対応を強化すればそれが適応策です。予想よりも早く対応したり、「想定される外力(気温、雨量など)」を大きく見積もる方向に転じることも適応策ですね。将来規模の拡大が予想される熱波に対応できるよう、熱中症対応のキャパシティを増強することになれば、それも適応策。あるいはこれから新しく住宅を建設するときには二重窓をつけられ、助成金をつけるということにすれば、それも適応策です。温暖化への適応の課題は地域によって異なります。熱帯地域の発展途上国などでは湯水傾向が強まると予想されますので、どうやって水を貯めて、産業や暮らしの水を確保するのが適応策の焦点でしょう。適応策とは保険と考えるとわかりやすいですね。温暖化の予測は、ガン発症の可能性の予測に似ています。ガンについての予測が出たとしても、発症しないかもしれません。でも保険は検討するでしょう。適応策も同様に決めておくべきものですね。

「今まで以上に」というのがミソ

気候と気象は違います。去年暖かったが、今年寒いというのは気象の変動です。それを5年、10年で平均値にして、その平均値がどう変わるかというのが気候変動です。後者でいうと、確実に温暖化は進行しています。

適応策とは今まで見たこともないような政策を行うというのでもありません。むしろ「今まで以上に」というのがミソです。洪水対応も熱中症対応も、従来から実施されています。でもみなさんが思っているよりも外力が大きくなってゆくと予想されるので、今まで以上に予算を使い、心を砕き、関心を持ちましょうということです。これまでは温暖化ガスを減らすことに資金や時間のほとんどを費やしていた組織や個人が、これからは熱中症対応や災害、水害を減らすことにもしっかりと資金や時間を割くようになれば、それが適応策と重視の時代のはじまりですね。

港北区の適応策の柱は熱中症対策と水害土砂対応が大事

都市における当面の温暖化対策で一番重要な適応策の一つは熱中症対策ですね。それは港北区も同じです。熱中症対策にも緩和と適応があって、緩和は都市を緑化すること。大気中の熱全体は減らせませんが、植物を植え、水面を整備して、水面、地面からの水の蒸発と、植物体を通じて水が水蒸気になる蒸散の両方を促せば、地表を冷やすことができ、熱中症の緩和策になるはずですね。適応策は、たとえば熱中症対応の救急車の出動とか、病院の態勢、キャパシティを従来以上に強化することです。

港北区の水・土砂災害対応については鶴見川との関わりになります。鶴見川の治水は国土交通省の調整・支援のもと、流域連携による「鶴見川流域総合治水対策」として関連する自治体や市民・企業が連携し、成果をあげています。しかし今後は、温暖化によって豪雨や土砂災害が増え、さらに海面上昇の危機も想定して、適応策として現在の計画の実施時期を早めたり、外力の増大に対応できるよう計画そのものを強化していかなければいけません。小さな谷戸(丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形)や崖地が多い港北区では、地域ごとに局所浸水や土砂災害の危険性をチェックすることも、区の重要な仕事になると思っています。私はこれを「小流域診断」と呼んでいます。

慶應の日吉キャンパスには温暖化適応策モデルがある

慶應義塾の日吉キャンパスには、水害土砂対応の温暖化適応策を考えるのに役立つモデルがあります。日吉キャンパス内には、過去4回ほど豪雨時に崩壊したことのある谷型の地形(谷戸)があり、温暖化も視野にいれ、保水機能を向上させて再発防止をめざす雑木林の再生や、雨水調整施設の自主的な設置などが、大学や活動団体の努力ですめられているからです。たとえば適応策を意識した森の実践活動を続けている「慶應義塾大学日吉丸の会」という団体は、毎月第一土曜日の午前中に顧問役の私が案内役となって公開型の散策・見学会を実施しています(見学会概要参照)。散策をとおして、温暖化適応策の実例を、やさしく学ぶことができます。ぜひご参加ください。



岸 由二さん

1947生まれ。鶴見高校、横浜市立大学生物科、東京都立大学大学院を経て、1976年から慶應大学で生物学を担当。2013年退職。現在は同大学名誉教授。理学博士。進化生態学、流域アプローチによる都市再生論、環境教育などを専門とする。鶴見川流域、三浦半島、多摩三浦丘陵などで「流域思考」の都市再生活動を推進。近著に「流域地図の作り方」筑摩プリマール新書がある。



鶴見川流域図

見学会概要

見学会は慶應義塾の日吉キャンパスに広がる日吉の森を散策しながら、再生・保全作業が進み、多くの生きものが生息するようになった雑木林や水辺での自然観察を行います。また、港北区で多くみられる谷戸地形やけ地で土砂災害を防ぐための工夫(適切な植樹方法や治水施設の整備)の実践例など、温暖化で懸念される豪雨によって引き起こされる被害を軽減するための適応策の取組を見学することができます。見学会を主催している「慶應義塾大学 日吉丸の会」は、慶應義塾大学の教員や卒業生、在校生、地域の方々で構成されています。

慶應義塾大学 日吉丸の会 / 体験作業つき散歩会 集合：日吉駅改札口
 定例活動：毎月第1土曜日 10:00～12:30
 TEL: 045-566-1165 E-mail: t.itou@tr-net.gr.jp
 ※中止・変更となる場合があります。参加希望の際は、事前にご連絡ください。



慶應義塾日吉キャンパスでの保全作業の様子